

視察報告

相庭 和彦

2019年10月18日から23日まで北京師範大学珠海校および北京師範大学附属南澳実験学校、北京師範大学附属惠州実験学校を訪問し、交流活動を行った。参加大学院生は27名、教員は附属校園の教員を入れて15名で合計42名であった。

スケジュールは以下のとおりである。18日16時30分に羽田空港に集合し、香港に向け出発。香港には22:00時に到着し、フェリーにて珠海市九洲港に渡り、24時北京師範大学珠海校に到着し、ホテルにて休んだ。翌19日午前中から新潟大学教職大学院生と北京師範大学大学院生との研究交流会を行った。翌20日は惠州市に移動して市内見学を行った。21日午前中北京師範大学惠州実験学校の訪問を行った。午後広州市へ移動し、22日午前北京師範大学付属南澳門実験学校で交流活動と授業見学を行った後、午後交流協定の締結式を行った。夜広州駅から香港に移動して翌23日朝帰国した。大変盛りだくさんの日程であった。

交流内容は以下のとおりである。まず19日新潟大学と北京師範大学大学院学生の交流会について。「日中大学院生フォーラム」と銘打った今回の交流は、午前中全体集会を行い、午後分科会を開催した。全体会では大学院の交流の意義及び交流活動の意義について新潟大学および中国側から報告がなされた。午後の分会は会場が3会場作られた。新潟大学側からは教職大学院生16名が各自の研究課題に即した報告を行った。報告内容は教職大学院で行っている課題研究に基づいてパワーポイントを準備し行われた。北京師範大学側からは修士論文に向け研究している内容に基づいて9本の報告がなされた。報告時間は30分である。新潟大学の報告は、教育実践の現場に即して行われたため、内容が理解しやすく、中国側から高い評価をえた。中国側の報告は、教育実践に理論的位置づけを行おうとするものが多く、日本側院生からもかなり良い評価された。毎年研究交流活動を重ねることにより水準が高くなり、両学の院生報告がお互いに理解しやすくなった印象が強い。また研究テーマがいじめ・不登校などの学校教育が抱える問題を北京師範大学の院生も扱い、報告も日

本語で行うなどの試みも取り上げられてきたので、交流会の雰囲気はとても和やかであった。北京師範大学の教員も 10 人以上が参加し、指導を含めた多くの生産的な意見も出された。大変有意義な研究交流であった。

惠州実験学校および南澳実験学校の訪問・授業交流については 3 ないし 2 人の院生がグループを作り、グループ討議を中心とする授業を展開した。子供たちの授業への参加態度は大変良く、両校の授業とも多くの教員が参加して大変盛況であった。特に話し合い活動などを取り入れた活動を中心とした授業は子供たちの積極的な取り組みがなされていることに、見学した中国の先生方の関心を誘っていた。また授業を見学した院生たちから「日本の子供と何ら変わることはない子供の様子」を学習できたことや英語や理科などの授業水準の高さに驚きと感動が聞かれた。授業終了後の検討会は分科会形式でなされ、時間いっぱいまで熱の入った討議がなされた。参加者が持っている授業論や教育論、授業論など幅広い意見が出された現職院生と教員同士の交流が深まった。

また惠州および広州の両校で懇親会も開催された。そこでもお互い意見交換をした教員同士の交流会であったため、子供や文化・教育に関する忌憚のない意見が出され、今後も続けていくことの重要性が語られ、国境を越えた豊かな教育交流がなされた。